令和７年度保育士･幼稚園教諭向け連続研修会のご案内

例年開催し、大変好評をいただいております『保育士･幼稚園教諭向け連続研修会(全３回)』を、令和７年度も下記のとおり行ないます。幼児期の自閉症児への理解を深め、適切な支援のあり方などを学んでいただくため、児童精神科医で豊田市こども発達センター センター長の若子理恵先生をお迎えして行なう『幼児期の自閉症基礎講座』やグループワーク、保護者の立場からの体験談、自閉症擬似体験などを予定しております。参加ご希望の方は、開催要項をご覧の上、お申込み下さい。皆様のご参加をお待ちしております。

研修日時・内容

《第１回》　令和７年６月８日（日）10:00～16:00

午前＝幼児期の自閉症基礎講座（豊田市こども発達センター センター長　若子理恵先生）

＊『幼児期の自閉症基礎講座』として基礎的な知識や、保育園・幼稚園など集団場面における自閉症児への対応について、児童精神科医の若子先生よりお話しいただきます。

午後＝サポートブック作成研修（愛知県ペアレント･メンター）

＊「サポートブック」とは、子どものことを周りの人に知っていただくために必要な各種の情報を記入して作成したツールで、冊子やカードなどがあります。本人活動の際や緊急時に利用するなど目的は多種多様です。この研修では、実際に作成していただきます。

《第２回》　令和７年７月２０日（日）10:00～16:00

午前＝①自閉症擬似体験（愛知県ペアレント･メンター、キャラバン隊）

＊キャラバン隊の公演で、自閉症の子どもの感覚や感じる独特の世界を擬似体験していただきます。

②発表“自閉症の子どもをもつ親の気持ち～幼児期を中心に”（　〃　）

＊自閉症の子どもをもつ保護者の子育て体験談、その時の親の気持ちなどをお話しします。

午後＝ケース検討ワークショップ・グループ発表（助言：若子理恵先生）

＊4～5 名のグループに分かれて、グループ別にこちらで用意したモデルケースの検討を行います。1グループに１名のペアレント･メンターがファシリテーターとして参加します。

《第３回》　令和７年１０月５日（日）10:00～16:00

午前＝事例検討ワークショップ・グループ発表

＊4～5 名のグループに分かれて、グループ別に事例検討を行います。1 グループに１名のペアレント･メンターがファシリテーターとして参加します。

午後＝助言と質疑応答（若子理恵先生）

＊第 2 回の研修後に現場へ持ち帰った事例へのフォローアップを行います。グループでの事例検討の中から、解決が困難だった事例や新たに起こった問題などを上げて、若子先生からご助言をいただきます。

講師　〇若子 理恵（わかこ りえ）先生　児童精神科医／豊田市こども発達センター センター長

愛知児童青年精神医学会理事。名古屋大学医学部附属病院、愛知県心身障害者コロニー中央病院、豊田市こども発達センターのぞみ診療所などを経て平成 31 年より現職。主に自閉症を中心とした発達障がいの臨床を専門とする。外来診療だけでなく一般、医師向けの講演のほか保育士など専門職の研修、関連図書の執筆なども数多く行っている。

〇ペアレント･メンター

メンター（mentor）とは「信頼のおける相談相手」という意味。現在、各地で障害のある子どもを持つ親自身が、診断を受けたばかりの子どもの親やさまざまな子育ての疑問を持つ親に対して、共感しながら話を聞いたり、地域の情報を提供するなどしており、愛知県では、研修を受けたペアレント･メンターが各種の活動を行っている。

会場＝名古屋市高齢者就業支援センター　大会議室

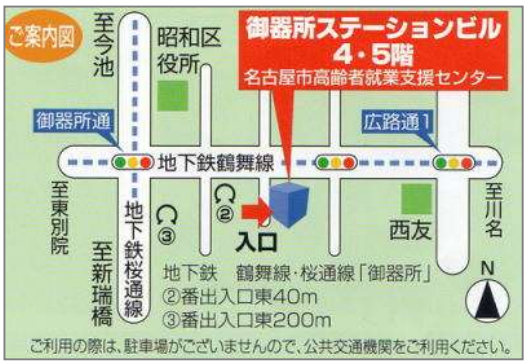
（名古屋市昭和区御器所通 3-12-1　御器所ステーションビル　５F）

※３回とも同じ会場です。

＊地下鉄鶴舞線②出口より東へ約 40m、
または桜通線③出口より東へ約 200m

公共交通機関をご利用下さい。

併設駐車場は、一般の方は利用できません。
お車でお越しの方は、自己負担で近隣のコインパーキングをご利用下さい。



対　象：愛知県内において保育士･幼稚園教諭等として勤務されており、現在、自閉スペクトラム症をはじめとする発達障害児の担任等で、「対応に困っている」「対応方法を学びたい」等の方。なお、原則として３回連続で参加可能な方を優先で受付します。

＊今までこの研修に参加されたことのない方を優先で受付いたします。
また、３回連続で参加できる方を優先で受付いたしますが、ご都合でそれが難しい方でもお申込みはできます。申込先までお問い合わせ下さい。

＊応募者多数で調整が必要になった場合は、同一園から複数でお申込みの方に園内での人数調整の依頼をさせていただくこともございます。そのため、同一園から複数で参加希望の場合は、お申込みの際に代表となる方を１名お知らせ下さい。

定　員：５０名程度（応募者多数の場合は、調整させていただきます）

参加費：7，000円（全３回分）

＊事前振込みが必要です。詳細については【申込方法】をご覧下さい。
なお、欠席された場合でも返金はいたしません。

申込締切＝令和７年５月13日（必着）

ご不明な点等がございましたら、当会事務所までお問い合わせ下さい。会場への直接のお問い合わせはご遠慮下さい。なお電話でのお問い合わせは、10 時～15 時までの間でお願いします。時間外や不在の場合は、FAX・メールまたは留守番電話にメッセージをお入れいただければ、折り返しご連絡いたします。

特定非営利活動法人 愛知県自閉症協会・つぼみの会　主催

あいち発達障害者支援センター、名古屋市発達障害者支援センター　共催

【申込方法】 ！ 事前に、下記の方法でお申込み下さい ！

Eメール または FAX で事前にお申込み下さい。
参加の可否は締切後(調整が必要な場合はその後)、申込者全員にご連絡いたしますのでしばらくお待ち下さい。

※ お申込みなしでの当日参加はできません。ご協力をお願いします。

＜お申込みから受講までの流れ＞

① Eメール または FAX で下記までお申し込み下さい。
件名を『保育士連続研修参加希望』とし、以下の項目をご記入下さい。

①参加者氏名
②〒・ご住所(勤務先の場合は名称もご記入下さい)
③連絡先(自宅や携帯など確実に連絡の取れる電話番号、また連絡可能な時間)
④FAX番号(自宅か勤務先園かも明記)
⑤所属園名、園所在の市区町村名、園でのお立場
⑥保育士としての経験年数および自閉スペクトラム症の子どもを担当したことのある年数
⑦現在、主に支援している自閉スペクトラム症の子どもの年令・対応に困っている点など
⑧この研修会参加にあたって望むことなど
⑨参加証の返送方法・宛先(メールアドレス・FAX番号のいずれかを明記)

※記入漏れのないよう、ご注意下さい。
なお、メール等への申込受領の返信はいたしませんので、ご了承下さい。

⇓

② 締切日以降（応募者多数で調整が必要な場合は調整後)、参加決定者の皆様へは参加費お支払いについてのご案内をお送りいたしますので、指定口座へのお振込みをお願いします。なお、申し訳ございませんが、お支払いの際の払込手数料は各自でご負担いただきますようお願いします。

⇓

③ 参加費のご入金が確認でき次第、Eメール・FAXなどそれぞれご指定いただいた方法で参加証をお送りしますので、当日忘れないようお持ち下さい。スマートフォンからのお申込みで印刷できないという方は、画面で確認いたしますので、メールを保存しておいていただくようお願いします。なお、Eメールでお申込みの場合は、必ず事前に当会からのメールが受信できるメール設定をしておいていただきますよう、ご協力をお願いいたします。

※領収書が必要な方は、研修会当日にお渡しいたします。受付でお申し出下さい。

≪申込先≫ 特非）愛知県自閉症協会・つぼみの会 「保育士連続研修」係

TEL; 052-938-6571、 FAX; 052-938-8242

E-mail; tubomi-aa@nifty.com

この「保育士・幼稚園教諭向け連続研修会」は、令和７年度で18回目の開催となりますが、毎年、参加された方々から好評をいただいております。
昨年の終了後のアンケートから、参加者の皆様のご感想をご紹介します。

幼児期の自閉症基礎講座

○自閉症の基礎的な知識を学ぶことができてよかった。特性についてわかりやすい説明があったので、担任している子どもが頭に浮かび「そうそう」と納得しながら講義を聞いた。対応方法など学んだことを自園でも実践したい。
○基礎的知識以外にも、アスペルガー症候群・自閉スペクトラム症や神経発達症など名称や定義の変遷、また障害を持つ人もそうでない人も生き易い法律が整備されつつあるなど、いろいろな社会的な変化も知ることができた。
○園には重度の子どもも軽度の子どももいるが、グレーゾーンの子どもの対応の難しさなど、保育の中で日々感じていることがお話しにあって納得できた。手帳を持っていても保育士に伝えて下さらない保護者や、診断を受けていなくても自閉症ではないかと思う子どももいる。いろいろな行動への具体的な対処方法などとても参考になった。
○感覚としてなんとなくわかっていたようなことを、知識として理解できたと思う。こだわりなど問題行動にどうしても目が向きがちで、他児から下に見られていたり、「なんで？」と尋ねられたりすることも多いが、その子と周囲の子どもが認め合って生活できるよう声を掛けていきたい。保護者からも「友達と関わらせてほしい」との要望を受けていたが、無理にすすめずその子の段階にあわせていく方がいいのだなと思ったので、その点を保護者と話し合いたい。
○知識以外にもイラストでの例えなど、理解しやすい講座だった。発達支援事業所に勤務しており、園との並行通園の中で、特に軽度の子どもの支援の難しさを感じている。事業所と園との連携など職場でも話題にできる内容だった。

サポートブック（SB）作成研修

○SB自体は知っていて、保護者にも提案しているが、作成しているかまでは把握できていない。実際に作成してみて文字にする難しさや記入に時間がかかることについて実感した。保護者への提案後のフォローについても考えていきたい。
○実際作ってみて、箇条書きだったり文章だったり、上手く伝える書き方の難しさを感じた。
○初めて作ってみたが、伝えたいことを具体的な文章にするのは難しく、自分の書き方で他の人にどのくらい伝わるのかを考えながら書いた。初見の相手にも伝わるようにと思うと、かなり気を付けて書かないと、と思う。
○定期的に書き直すと、以前の様子と今の様子を比べることができ、成長記録としても使えると思った。保育者にとっても一つ一つ場面を想像して書くことで、保育の仕方の振り返りにもなると感じた。
○先日行った小学校への申し送りについて、部分部分の具体的に配慮が必要な点などをもう少ししっかり書いておけばよかったと思った。記入後にグループで見せあったことで、すごくよくわかった。職員研修でも使ってみたい。
○支援者がつながることの大切さを痛感しており、その子への理解を深めるための情報共有ツールになればと思う。

擬似体験・保護者の思い

○擬似体験は他でも何度も経験しているが、自分もその時々で感じ方が微妙に違う。子どもたちもいろいろな感情（一言では片づけられない気持ち）がわくのだろうと思った。自己肯定感が下がるような関わり方は避けるようにしたい。
○良かれと思った声かけが焦りや緊張を助長していたかもと思った。自分は静かな環境の方が苦手なので、個々の差の大きさも実感した。配慮しているつもりで逆に困らせているかもと感じたので、保育の見直しのきっかけになった。
○自閉症でなくても「きれいに折りたいけどできない」「わかっているのに励まされる」とイライラや悲しい気分になった。子どもはこんな気持ちだったのだろうと想像すると、理解していたつもりが、まったく理解できていなかったと思う。
○親の気持ちに寄り添って「話を聞く・話す」ことについて、難しさを痛感している。生の声を聞くことができてよかった。
○親の気持ちは100人いたら100通り。その家族の背景によってもいろいろな気持ちがあるが、寄り添っていきたい。
○研修で話せるくらいのメンターでも、感情が行き来して障害を完全に受容することは難しいのだと思った。
○当事者にしか理解できない気持ちもあると思うが、その子の成長を共に考える相手になれるよう努めていきたい。

グループワーク

○グループ検討では同じような意見でも視点が違っていたり、この意見はここにつながるのかなど、広い視点で見ることができ、取組み後のフォローアップをしたことで、なかなかじっくり振り返ることができなかった部分まで考えられた。この意見交換で、まだまだ子どもへの理解を深めていける、対応のパターンを増やしていけると感じた。
○メンターが親として「何が効果的だった」など意見を出してくれたので、話がまとめやすかった。もっと聞きたかった。
○自分にはない考え方やこのやり方で良かったという気づきになった。他の方のご意見で「納得!!」というものは取り入れていきたいと思った。子どもにとって何がいいのか考えた保育をしていきたい。
○子どもの状態と園からの指示がマッチしてなくて困っていたが、同じような問題で悩んでいる方がいて少し楽になった。
○色々な方と意見を交わすことで保育の振り返りができて貴重な体験だった。若子先生からのアドバイスも嬉しかった。